

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201021		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートライフ小鹿公園前 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県駿河区小鹿927番地1号		
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 17 日	評価結果市町村受理日	平成31年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2294201021-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31 年 1 月 31 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護と併設された明るく清潔感のある事業所です。施設の近くに大きな公園があり、散歩をするのに最適な環境です。認知症対応型共同生活介護の名の通り、認知症のあるご利用者に対し、他のご利用者や職員と手を取りあいながら、共に暮らし共に生きる生活の場所としてご利用頂いています。できる方には、洗濯物をたたむ・食器を拭く等の作業を行って頂く等、できる限りその方の持っている能力を活かせるように支援させて頂いています。地域のイベントへの参加や地域の方を招いてのイベントの開催等、地域との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は利用者が生きがいを持って楽しく過ごしてもらいたいと、食事レクリエーションで普段食べられないピザやグラタンと一緒に作ったり、職員が皆の前で手打ちした蕎麦を年越し蕎麦にして提供している。製作レクリエーションで季節を感じる作品を作って飾る等している。法人の研修は基本から応用へ技術を高める仕組みで、評価された場合給与に反映することで職員のやりがいにつながっている。事業所は和のテイストを大事に多くの飾りつけはせず温かな落ち着いた雰囲気になっている。職員全体で利用者に喜んでもらいたいと脚本・演出・役者になり劇やマジック、マジック漫才などを催し笑顔を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enter)

確定日:平成 年 月 日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各会議にて、理念の唱和をおこなっている。1階の事務所に掲示している。チーム会議にて、理念の意義を説明し、意識付けをおこなった。	法人の理念を基に利用者・職員が人として生きがいを持って過ごせるよう、「安心」「快適」「喜び」を大切に家族の絆と地域との関わりを作ることに努めている。開設当初からの事業所理念も受け繋がれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度以上、地域交流イベント(ふれあい祭り等)を開催している。また、清掃の日などを通して交流をしている。地域のサロンにもお客様を連れて参加している。	近所の人と近くの公園やスーパーマーケットなどで会うと挨拶を交わしている。ボランティアが小規模多機能に来るときは、家族や地域に声掛け、自治会長経由の大正琴演奏時には地域の人の参加があった。地域の祭りや事業所の祭り時に地域の人との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方に対し認知症の事例とその対策を運営推進会議などで情報提供している。一般の地域住民の方にはふれあい祭りで相談会を行い認知症の理解・対応が出来る様に計画・実行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス実施状況や事故報告等の情報提供を行い、様々な意見を頂戴し、話し合いをおこなっている。また、そこで頂いた意見等をサービスに活かしている。	地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・家族(小規模)の参加があって小規模多機能事業所と合同で定期開催はしている。目標達成計画にあげ、会議終了後グループホーム内を見てもらい、一緒におやつの会食を行なった。	家族の参加を促す工夫をして、意見を聞ける機会を設け、グループホームの運営に活かせるような運営推進会議の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問点があった際には、市の担当者にお問い合わせをし、アドバイスや指示を頂いている。介護相談員の受け入れもおこない、随時情報交換・相談をおこなっている。	地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加していて交流があり、包括支援センター主催の研修に参加するようにしている。市介護相談員にノートを用意し利用者からの意見や気づきに事業所からの返答等して、活かせるようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回開催の会議内で研修をおこなうと共に、マニュアルを整備し職員が閲覧できる体制を整えている。グループホームの玄関は施錠しておらず、ベッド柵等の身体拘束もおこなっていない。	居室のベッドの配置や柵などを含め拘束はなく過ごせている。転倒しやすい人1名は布団を敷いて対応している。職員には常に研修やケアの中で拘束についての理解は浸透していて、職員の都合でのケアではなく納得してもらえる声掛けなど実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し常に注意を払い、防止に努めている。年に3回(1月・5月・9月)高齢者虐待チェックシートを職員全員に行っており、虐待防止に対する意識付けを行っている。		

静岡県(アクタガワ ハートライフ小鹿公園前)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全体会議内の研修に組み込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をとり契約の内容について細かく説明するとともに、本人・家族の不安や疑問を尋ね、理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やお客様アンケート、日頃の面会にてご家族からの意見・要望を収集している。また、ご利用者には、日頃からコミュニケーションを図り、いつでも職員に対し意見・要望を伝えられる環境づくりをしている。介護相談員の受け入れもしている。	年1回の法人の家族アンケートで意見を聞いて、内容については即改善するようにしている。介護相談員から聞いた利用者の意見を家族に伝えたりできることは反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・月一回のチーム会議・毎日の屋礼を通し意見の吸い上げや個々に話をする時間を設けている。また、給与明細と一緒に改善提案書をパートの職員に配布し、意見を求める制度がある。	法人で行なうスキル研修は1対1もしくは1対2で行なわれ、基本から応用へ技術を高めるものである。結果を評価し給与に反映させる仕組みがあって職員の生きがい、やる気に繋がっている。休日、シフト希望等概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、半年毎に面談を行い個別に評価をしている。また、その際に目標設定をし、職員が向上心を持ってやりがいを感じながら働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、教育トレーナーによる介護技術の勉強会をおこなっており、全職員が参加できるよう計画的に開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加やふれあい祭りへの同業事業者の招待等を通じて交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人や家族と面談をおこない、不安な事や要望を確認しケアプランに組み込むと共に、全職員が事前に情報共有できるよう取り組んでいる。また、利用開始時は慣れるまで積極的に職員が関わりを持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に本人や家族と面談をおこない、不安な事や要望を確認しケアプランに組み込んでいる。また、家族の意向に耳を傾け、コミュニケーションを図りながら良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族との面談の中で潜在的なものを含めたニーズの把握に努め、それに優先順位をつけることで、ご利用者やご家族の希望に添ったサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や嗜好をアセスメントや会話の中で情報収集し、ご利用者を歴史を持った尊厳ある人間としてとらえ、本人の強さを引き出して施設内でも自立した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日々の生活の様子や言動・意向等を必要に応じてご家族に情報提供している。連絡を密に取りながら、ご家族として支援して頂きたいことはなるべくお願いしており、ご利用者とご家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族了解の下、知人や友人の面会を受け入れている。ふれあい祭りや地域のイベントへの参加等により地域との関係性が保てるよう支援している。	遠方の友人と電話や手紙のやり取り、お茶を点てもらいお茶会を開く、編み物の継続等続けられるよう支援をしている。家族が対応して馴染みの理美容院へいく人がいる。1階の小規模多機能職員、利用者やホーム内の皆が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や能力を把握し、日常生活やレクリエーションの中でお互いがコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。		

静岡県(アクタガワ ハートライフ小鹿公園前)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時においても、今後いつでも相談を受け付ける旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に近い存在として寄り添いながら対話し、出来る限り意向に沿えるようにしている。	食事後やレクリエーションの時などゆったりして過ごせる時にテレビやチラシを見ての話題からや会話の中から思いや望むことを知ることがある。「食べたい」希望には食事レクなどで一緒に作って叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時に、一人ひとりの生活歴を本人・家族から確認している。また、サービス利用中の利用者や家族との会話からも情報を収集し、必要な情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面談にて把握に努めており、アセスメント表やフェースシートに明記している。また、心身状態や有する能力は日々変化することもある為、日々観察し、変化があった際は、申し送りに記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の能力の変化に対応できるよう、定期的にカンファレンスを開催し、ケア方針の決定、見直しを行なっている。ケア方針を家族と話し合い、ケアプランを作成している。	本人の思いや希望を聞いて、家族には担当者会議で本人の状態を伝え意見を聞いている。チーム会議で職員の意見を聞き、ケアマネジャーが介護計画書を作成、家族に説明している。計画書は申し送り時に全職員が見て共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をパソコン上で管理し、職員間で情報を共有している。また、定期的もしくは必要に応じてケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、理美容手配やカルチャー教室、イベント参加などの取り組みをしている。		

静岡県(アクタガワ ハートライフ小鹿公園前)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員も参加する運営推進会議の開催や地域のボランティアを招いてのイベントの開催、地域イベントへの参加等を通して、地域との交流を図りながら利用者一人一人が地域の一員として有意義に生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による1ヶ月に2回の訪問診療、24時間対応可能な臨時往診・医療相談や訪問看護による1週間に1回の体調管理等、適切な医療を受けられる体制が整っている。	家族対応で馴染みの主治医に受診の1名以外は協力医で診療を受けている。他科受診時は日常の状態を伝え必要があればバイタルを渡して家族対応で受診している。結果は家族から聞いて協力医に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回の訪問看護の際に、日頃の関わりの中で気づいたご利用者の身体状況の変化等を伝えて相談している。その結果、必要に応じて、主治医への連絡や受診の手配等をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の状態を医療機関に伝えている。退院時には医療関係者との情報交換を行い、必要に応じて退院前カンファレンスに参加する等、適宜協力体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化した場合の方針や施設でどこまでの対応ができるかを説明している。主治医や訪問看護師と連携を図っている。	契約時に法人の指針を説明し意向の確認をしている。食事がとれなくなった時医師・家族・事業所で話し合い今後の方針を決めている。医療連携と家族の協力の下事業所での支援をしている。音楽が好きだった人にCDを渡し家族の見守る中最期を迎えたことがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度のチーム会議にて定期的に急変や事故の対応について研修をおこなっている。また、緊急対応のマニュアルを作成し、全職員が閲覧可能となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、5月と11月に防災訓練をおこない、有事に備えている。また、緊急避難経路図を見える場所に掲示している。	介護付き有料老人ホーム・小規模多機能事業所と合同で地震・火災の日中・夜間を想定した訓練を行っている。5月の訓練では消防署が来て消火器使用の訓練を実施した。隣接する老人ホームとの間の扉が火災発生場所によって避難する方向が決まるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修や認知症研修等にて、常に人格を尊重した言葉かけ・行動をしプライバシーの保護に努めるよう職員に教育をおこなっている。倫理綱領を1階の事務所内に掲示している。	法人のマナー研修は1対1の実践で行いスキルを育てるもので、全員交代で受講している。声掛けは苗字、名前に「・・・さん」付けにし穏やかに自然な距離感を持って尊重した対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の声を傾聴し、職員主導では無く利用者が主体となって意思表示や自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活習慣やペースを尊重しており、職員主導の生活にならないように常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を実施している。また、衣類はご本人が気に入った洋服を自分で選んでいただく様に支援している。定期的にかわにしの衣料品の販売会にも参加して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、お客様と一緒に食事作りのレクレーションを行っている。お客様と食べたいものを相談し、決めている。できる方には、食器を拭く等の作業を手伝って頂いている。	食事は献立を基に職員と調理に関われる人と一緒に作っている。食事レクではピザ・シチュー・グラタンなどに挑戦したり、職員(法人の蕎麦打ち検定合格者)がお客様の目の前で打ち、年越しそばを楽しむことがあった。中華料理・寿司・ファミレス等外食に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配送業者よりカロリー計算されたメニューの食事を提供している。嚥下状態に合わせた食事形態の変更や禁止食材の設定もおこなっている。食事摂取量の確認をおこなっている。また、毎日の水分チェックも行っており、適切な量の水分を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方にはご自分で口腔ケアをし行って頂き、困難な方には職員が介助をして口腔衛生に努めている。		

静岡県(アクタガワ ハートライフ小鹿公園前)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意が曖昧な方でも、安易にオムツにせず、その方の状態に合わせてトイレ誘導を行う事で可能な限りトイレで排泄ができる様支援している。	夜間はオムツ介助やポータブルトイレ使用の人も昼は個別のパターンを把握し、時間を見て誘導して、トイレでの排泄を支援している。普段の姿勢など個別の状態を知り、パッドの工夫をすることで不快な思いをなくせるよう職員間で話し合っ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めたうえで、運動や水分摂取を促している。必要に応じて下剤を服用して頂き、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はほぼ決まっているが、入浴回数や入浴時間は極力本人の希望にあわせて介助を行っている。	月・木・土曜日の入浴日に全員が入浴している。車椅子使用の人は1階の小規模の機械浴を利用している。一番風呂希望の人に午前・午後一番風呂を提供し、拒否する人に朝から声掛けの工夫をして、難しい場合も足浴・清拭で清潔保持の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の睡眠パターンを把握し、日ごろのパターンに合わせた時間に就寝して頂いている。日中も、体調や希望に応じて居室で休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬の表を保管し、変更時には差し替えをしている。日々、服薬の管理と体調の観察をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や現有能力・ニーズ・趣味等の把握に努め、それらの情報をレクリエーション等の活動に活かしている。ご利用者一人一人が、楽しみや生きがいを持って生活できる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の祭りや散歩等で外に出かけている。また、定期的に外出レクができるよう計画をし実行している。	広く長いベランダに出て外気浴をしながら、洗濯を取り込んだり、プランターで花や野菜を栽培している。近くの公園に季節の花を見ながら散歩に行っている。外出レクリエーションではドライブでイルミネーションを見に行ったり、外食に出かけている。	

静岡県(アクタガワ ハートライフ小鹿公園前)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の立て替え金を使用し、外出時に買い物を行っている。お客様にお金を出して頂き、自分で買う楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より了承が得られれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な馴染みやすい空間になる様に配慮している。お客様と季節の作品作りを行い、皆さんに見えるよう展示、またはお渡して居室に置いて頂いている。	飾り過ぎない落ち着いた和のテイストを大事にしている空間に、職員の描いた利用者の似顔絵が掲示しており、本人・家族に喜ばれている。畳のスペースでお茶会をしたり、洗濯物をたたむ等に使っている。フロアから出られる長く広いベランダは多目的に使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に仲の良いご利用者は隣の席にする等、ご利用者間の相性に合わせて座席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのあるものをお持ちいただくようにご家族にお願いしている。	家で使っていた馴染みの家具の上に造花や生花を飾り、ハンガーラックにレクリエーションでの作品を掲示してある。ひ孫の写真を多数貼っており、おもわず笑顔がこぼれる暖かく落ち着いた過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりを付け、お客様の安全を確保し、トイレの場所も見分けがつくように床にマークをつけている。また、利用者個々の身体状況に合わせてポータブルトイレ等の福祉用具を個別に利用して頂いている。		

目標達成計画

作成日：平成31年 3 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族の参加を促す工夫をして、意見を聞ける機会を設け、グループホームの運営に活かせるような運営推進会議の取り組みに期待したい。	グループホームのお客様の運営推進会議の参加率が低いため、参加者を増やし、意見を聞く機会を設ける。	グループホームのご家族様だけでなく、お客様にも参加を促し、意見を頂くようにする。また、ご家族様には、案内を出し、電話で参加されるか確認する。その際に出られない方には、意見があるか聞くようにし、ご家族様の想いを反映させていく。	12ヶ月
2	35	防災訓練を行っているが、地域との防災のかかわりが薄い。	運営推進会議で自治会長から、地域の消防団が防災訓練に協力して下さるとの話があり、防災訓練に協力してもらい、防災の地域とのつながりを作る。	来年度1回は、地域の消防団と防災訓練を行う。5月と11月に定期的に行っているが、そのどちらかで行えるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。